

## 1. 授業の概要(ねらい)

この演習は、憲法学の基本的な論点を取り上げて、憲法の理解をより深めることを目標とします。基本的な方法としては、論文読解を予定しています。

後期の演習では、修士論文の題材にかんする文献を自分で集め、先行研究にかんする理解を深めることが大きな目標となります。先行研究を読むとはいかなる意味を持つかを理解します。

具体的には、興味あるテーマについて、受講生が論文に直接あたって、実際の論文を読むこと、さらには、関連する多様な学説を調べることなど(ディスカッション)が主な課題となります。そうした作業を通して、論文を書くことの意味を教員とともにもう一度考えます。課題は、自分で見つけてきて、自ら一人で研究する。孤独な作業ですが、教員はちょっとしたサポートしかできません。ゼミの時間を、より有意義に使ってください。

## 2. 授業の到達目標

①憲法の分野におけるより高度な知識を習得し、修士論文等の作成にそれを生かすことができる。

②憲法にかんする論文を「正確に」理解したうえで、それらに対するコメントを「適切に」付けることができる。他の受講生からの批判に適切に対応することができる。およそ「考えられる」批判にも適切に対応することができる。

## 3. 成績評価の方法および基準

出席状況による貢献(50%)はもちろんのことですが、報告やプレゼンテーション、(とりわけ報告時以外の)発言状況などを踏まえて判定します(50%)。大学院では、自ら研究する姿勢が求められます。お客さん意識で、教えてもらおうなどとは考えないことです。

## 4. 教科書・参考文献

## 教科書

テキストや参考書は、初回に決めます。さしあたりは、学部時代に購入したような、憲法の基本書や判例集があると便利です。

## 参考文献

法律時報 『学界回顧』 日本評論社

## 5. 準備学修の内容

報告者は、割り当てられた判例ないし文献を要約したうえで論点を提示しながら、自己の見解をレジュメにまとめ口頭にて発表することになります。発表をする際には判例だけでなく関連する論文を図書館などで探すことが重要です。

## 6. その他履修上の注意事項

受講生による報告が基本です。報告者が責任を持って報告することが重要です。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 初回で読む判例や論文を決め、その担当を決める予定  
後期に関しては、受講生の修士論文のテーマにできるだけ合わせた演習をおこなう予定
- 【第2回】 論文研究報告・全員による討論
- 【第3回】 文献を調べる(文献の探し方を知る)
- 【第4回】 文献を知る(先行研究を整理する)
- 【第5回】 文献を読む
- 【第6回】 文献を比較する(分類する)
- 【第7回】 文献を批判する(外部講師の話を聞く)
- 【第8回】 文献を論文に活かす
- 【第9回】 論文の書き方を知る、書いてみる
- 【第10回】 論文を育てる
- 【第11回】 論文を批判される(他者の意見を聞く、反論する)
- 【第12回】 論文にコメントを付ける
- 【第13回】 論文の意義を知る
- 【第14回】 論文を長く書いてみる
- 【第15回】 むすびにかえて(オンライン授業)